

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学校名	静岡県立清水特別支援学校	校長名	成岡裕司
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
元 気	自分の体の安全や互いを認め合う習慣づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康や命を自分で守る取組ができた子ども90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 保健目標を意識したクラス運営と保健教材の活用を行った。 防災訓練等を活かした日常的な防災意識の向上に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、マスクの着用など、教員の支援を受けつつも、自分の命を自分で守る意識の向上をはかることができた。 本校の被災想定に合わせて避難場所を変更し、避難訓練を実施することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 互いを認め合う子ども同士の間が育っている95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や授業を通して仲間同士で頑張りを伝え合う指導を実施した。 学部を越えて、異年齢間交流を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 互いの良さや違いについて理解を深める指導ができた。 異年齢間交流の場を設定できたことで、児童生徒同士の自然な関わりを増やすことができた。
	安全で安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶と笑顔が更に充実したと答える教職員と保護者100% 日常時点検や緊急時の対応を理解し、対応できた教職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会と連携し、挨拶を習慣化した学校づくりを行った。 日常点検の呼びかけと、安全な生活環境を整える意識の向上をはかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全校での挨拶運動を行い挨拶と笑顔へ意識の向上をはかることができた。 緊急時対応については、危機管理マニュアルの周知や実践的な防犯訓練の実施など、職員研修を行うことができた。 人権推進のための合言葉などを学習や行事と関連付けて周知していきたい。
笑 顔	子どもの学びの繋がり意識した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットと期間を考え、業務に取り組むことができた教職員100% 会議の短縮と効率を実践した教職員95% 	<ul style="list-style-type: none"> スクールバス乗車確認ボードを定着させた。 ライフジャケット着用訓練を実施した。 文書共有のリンクを活用した、タイムリーな月予定の提供を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールバス降車時の置き去り、忘れ物のダブルチェックが習慣化できた。 ライフジャケットの着用時間が短くなり、自分で着られる児童生徒が増えた。 前日までの資料配布やレジュメへの時間配分提示などの意識の向上をはかることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> できる、分かる等工夫された授業実践により子どもの確かな成長を実感する教職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の支援計画」「個別の指導計画」「自立活動シート」の活用と情報共有を行った。 学部研修や事例検討会を実施した。 ゲストティーチャーの活用と情報発信を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘した学習会を各学部で実施したことで、授業改善を行うことができた。また、学部研修を活用して、授業検討や子どもの成長を確認することができた。 事例検討会を通して、児童生徒の支援方法や見取り方などを学び、支援改善につなげることができた。 支援・指導の工夫を共有できるように、実践や効果的な指導方法の紹介を行うことができた。 「からだづくりシート」を自立活動の目標を考えるツールとしても活用していきたい。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> 静岡県教員育成指標を意識し、指導力の向上に繋がった教職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 自身のキャリアステージを意識した目標の設定と指導の充実をはかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットと期間を絞った、自己目標の設定を行うことで、指導力の向上に繋げることができた。
	豊かな心と挑戦する心を育てる指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持つ自分を表現しようとする子どもが育っている100% (読書、図工・美術、音楽、体育、職場実習、コミュニケーション) 	<ul style="list-style-type: none"> コンクールへの出品やきよとくギャラリーや掲示板などへの掲示による意欲付けを行った。 外部の方との活動へ目的を持って参加できるように、事前指導の充実をはかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の掲示や外部コンクールへの出品により、表現意欲を高めることができた。 ゲストティーチャーを招聘し、本物の技に触れることで、学習への意欲づけに繋げることができた。 事前指導を充実させたことで、児童生徒が目的をもって外部の方と活動することができた。
貢献	特別支援教育の連携と推進	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験を広げ、社会性を育むことができたと答える教職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> かがやき発信と校内の異年齢交流の充実を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や交流など地域での活動により、つながりを意識し、生活経験を広げる学習が実施できた。 校内外の展示の年間計画を立て、学習指導課と地域連携課が連携して取り組みたい。
	保護者や地域と繋がる指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 現在の生活や近い将来を見据えた進路学習ができた教職員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講話や進路説明会の実施と、保護者への情報を教員間で共有し指導に活かした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学部に応じた保護者向けの進路講話を実施し、同じ内容を職員にも周知することができた。 小学部は進路講話に参加する保護者が少ないため、学年懇談の中に組み込むようにしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 会議等によってども等の生活や学習が改善向上した90%以上 相談依頼者の満足100% 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズに応じて面談やケース会議を実施し、連携の強化をはかった。 相談者の気持ちに寄り添い、適切なアドバイスの提供を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、期を逃さず、面談やケース会を実施し、外部や校内の連携を強化することができた。 相談者の主訴を明確にし、適切なアドバイスの提供をすることができた。